

はじき すえき  
**土師器と須恵器は同じなの？**

～土師器と須恵器の特徴～

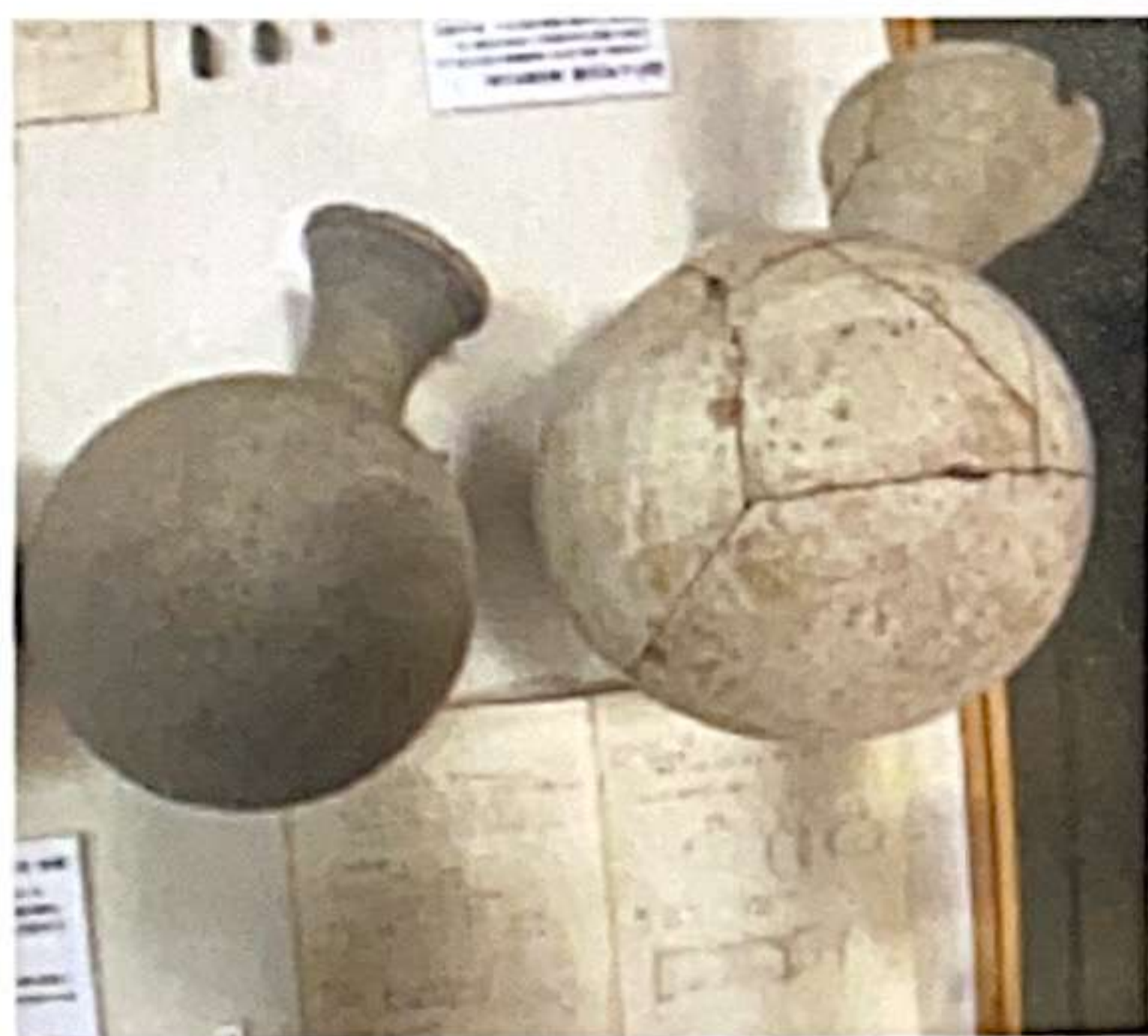
・土師器



▲ 土師器・坏  
(高崎市、下芝五反田遺跡の  
出土品をスケッチ)

土師器は古墳時代以降に使用され、弥生土器と同じ技術を元にして作られた土器です。そして野焼きや覆い焼きという手法で**700度~900度の低温**で焼かれます。色は**赤っぽく**、薄手で**比較的割れやすい**です。**煮炊き用・食器用**として使用されていましたが、**透水性が高い**ため液体の保存は難しいです。

・須恵器



▲ 須恵器・埴瓶  
(玉村町、芝根村第15号古墳)

須恵器は古墳時代中期に朝鮮半島から伝わりました。ろくろで形を作り、窯で**1200度~1300度の高温**で焼かれます。色は**青灰色**で**貯蔵用・食器用**として使用されました。また祭事の時の器としても使用されたため土師器よりも高級な印象があります。さらに**透水性が低い**ため液体の保存も適していました。須恵器は土師器より後に日本に伝わりましたが、どちらも用途が違うので併用されました。

尾崎喜左雄と土師器

弥生時代後期、古墳時代は文字の資料が残されておらず当時の人々の生活様式を知るには考古学的な調査や研究が必要であった。尾崎先生は「群馬の歴史」という著書で太田市米沢の石田川遺跡から多くの土師器がみつき、そこには住居の跡があったことも確かめられたと記している。尾崎先生は古墳の発掘調査だけでなく郷土史の大切さ、一片の土器の重み等をよく語っていたそうです。

ドキッと  
新事実!?

土師器が  
紙コップや紙皿の役割をしていた？

かわらけ(漢字表記は土器)は中世から近世にかけて使用されていた素焼きの土器です。土師器の系統に連なるため土師質土器とも呼ばれます。公家・武士などの上級官人の館では祝宴・儀式・儀礼の場の食器または灯明皿としてかわらけが使用され、使用後は一括処分されていたそうです。